

日本放射光学会 「放射光科学・光源の将来計画」について

日本放射光学会会長 尾嶋正治

2009年10月から2年間の任期で会長に就任した際、以下の5つの方針をかかげました。

1. 放射光広報活動，学会会員の増加：会員1500人を目標にし，放射光学会誌や講習会を充実させるとともに，ブルーバックス「放射光で見る物質のしくみ～ナノテクから生命，地球の起源まで～」の発刊をめざします。
2. 新しい放射光科学の推進：将来計画を含めた放射光科学のビジョン・ロードマップを策定します。
3. 若手研究者の育成：奨励賞，および「若手を中心とした研究会」を継続します。
4. アジア・オセアニアの放射光科学のリーダーシップ：AOFSTRの継続と発展，ならびにSESAME支援を通じて国際的な貢献を行います。
5. 財政基盤の確立をめざします。

このうち，最も重要だと考えて推進してきたのが，「将来計画を含めた放射光科学のビジョン・ロードマップ」です。そのため，まず「光源計画WG」を立ち上げ，両宮慶幸前会長に取りまとめをお願いしました。一方，これからは利用研究からの要望，放射光サイエンスのビジョンを明確にし，ニーズとシーズのキャッチボールで将来計画を議論すべきという考えのもと，「放射光サイエンス特別委員会」を立ち上げ，水木純一郎委員長に取りまとめをお願いしました。図1に示す行程表に基づいて，2011年1月の第24回放射光学会年会・合同シンポジウムで両委員会が中間報告を行い，3月に合同特別委員会を開催し，放射光学会誌9月号に最終報告書を掲載する，という予定で進めてきました。

2009年10月に日本学術会議から大型研究計画マスタープランの提出依頼が放射光学会にあり，また11月には事業仕分けがありました。従って，我々は議論の途中段階でしたが，放射光学会としての見解を表明して参りました。

放射光科学・光源計画ビジョン・ロードマップ

1. 放射光光源計画WG (両宮WG主産) 2009年12/25, 2010年4/10, 6/5 下村(前々会長), 尾嶋(会長), 石川(SPring-8), 若柳(KEK-PF), 小杉(UVSOR) オブザーバ: 河田(PF), 上坪(佐賀), 太田(立命), 谷口(広島), 加藤(UVSOR), 宮本(すばる), 竹田(中部) 大型+中・小型光源将来計画	2. 放射光サイエンス将来計画特別委員会(水木委員長) 2010年6/12, 11/13 物質科学関係: 藤原(東工大), 木村(広大), 唯(分子研), 有馬(東北大), 野尻(東北大) 生命・生物科学関係: 中道(慶応大), 西島(持田製薬), 佐藤(衛)(横浜市大), 中川(阪大) 光基礎関係: 矢橋(理研), 初井(JASRI/理研), 田中(理研), 原田(KEK), 足立(KEK-PF)
--	--

第24回年会・合同シンポジウムの総会で中間報告

2011年中に1回、合同で特別委員会開催

放射光学会誌(2011年9月号)に委員会報告書掲載

図1 放射光科学・光源計画ビジョン・ロードマップ策定の行程表

その中で，学会として明確な「ビジョン・ロードマップ」を持つことの重要性を痛感いたしました。通常，この種の報告書では明確な課題設定に対して明確な結論が述べられていますが，今回の「将来計画を含めた放射光科学のビジョン・ロードマップ」では，明確な結論を出すには至っていません。その点，反省すべきところが多々ありますが，21世紀の放射光科学を展望する上でこの時点でこういう議論が出来たことは大きな意義があったと考えています。

この報告書は，1)両宮WGの報告，2)水木特別委員会の報告，の他に，3)合同特別委員会の質疑応答メモ，の3部作から構成されています。特に3)には放射光科学を中核的に支えている研究者からの貴重な意見が多く含まれています。この3部作の報告書を21世紀の放射光科学に関する議論の基礎にしたいと考えています。ご協力頂いた多くの委員，合同特別委員会参加者，幹事，事務局のみなさまにこの場を借りて厚く御礼申し上げます。